

研究・調査報告書

報告書番号 238	担当 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Lifecourse socioeconomic predictors of midlife drinking patterns, problems and abstention: findings from the 1958 British Birth Cohort Study. 中年期の飲酒パターン、飲酒問題を予測する人生の社会経済学的因子：1958 英国出生コホート研究</p>	
執筆者	
Caldwell TM, Rodgers B, Clark C, Jefferis BJ, Stansfeld SA, Power C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Depend. 2008 Jun 1;95(3):269-78.	
キーワード	
飲酒、社会経済学、縦断研究、非飲酒者、人生、過剰飲酒	
要 旨	
<p>背景： 飲酒問題の発生は、飲み方、飲酒による症状、社会的な問題に左右されることが指摘されてきた。本論文では、中年期の飲酒パターンを予測する社会経済学的因子を検討した。</p> <p>方法： 英国出生コホート研究 (n=9146) における社会経済学的情報としては、社会経済学的位置、住居の保有 (7,11,16,33,42 歳)、教育で得た技能(33 歳)がある。飲酒パターンは飲酒障害発見テスト (Alcohol Use Disorders Identification Test) で評価した。飲酒パターンは以下の段階に分けた： 「中等度から過剰(binge)」(低問題スコアの過剰飲酒者)、「低問題多量飲酒者」(過剰かどうかに関わらず)、「問題」(かつ多量または過剰)、「非飲酒および機会飲酒」(月 1 回以下)。これらのカテゴリを「低リスク」飲酒者と比べた。</p> <p>結果： 社会経済学的不利は、中等度から過剰、非飲酒および機会飲酒、問題飲酒と関連したが、低問題多量飲酒とは関連しなかった。小児期から成人期にかけての繰り返す継続的不利が高いリスクと関連した。一部は教育が影響した。非飲酒および機会飲酒と中等度から過剰飲酒は小児期の不利のみから予測できた。非飲酒および機会飲酒の社会経済学的不利は、過去の問題や多量飲酒では説明できなかった。</p> <p>結論： 人生における社会経済学的不利は特定の飲酒パターンと関連した。さらに、この関連は、繰り返す継続的不利が調べられていなければ過小評価されるだろう。</p>	